

東京芸術劇場 東京のはら表現部

第5期（2023年度）の活動

定例ワークショップ

新しいメンバー7名を迎え、ダンサーとファシリテーション実習生合計15名で、4月から2月までに10回のワークショップを実施しました。うち8月の第5回を、家族・友人などを招き「ミニ発表会」として、また、2月の最終回を「オープンのはら season5」として公開で開催し、それぞれワークショップの様子を紹介するデモンストレーションや、メンバーで作った作品の発表を行い、活動を広く知り親しんでいただくための機会としました。



ワークショップの様子



8月20日ミニ発表会 来場者としてあわせ

社会福祉施設でのアウトリーチ

定例ワークショップと並行して、3年目となる社会福祉施設等でのアウトリーチを、今年度は延べ11回実施しました。社会福祉法人あだちの里「谷在家福祉園」にファシリテーション実習生2名がそれぞれ隔月で訪問し、施設利用者の方々と一緒にワークショップを行いました。また、12月には、文京学院大学キャンパス内の体育館で、社会福祉法人武蔵野会「リアン文京」に通う放課後等デイサービスの高校生たちと大学生、そして東京のはら表現部メンバーで、交流ワークショップを開催しました。アウトリーチは、のはらメンバーと外部の方々と表現を共有するとともに、実習生がファシリテーションの実践を通じて研鑽を積む貴重な場です。



谷在家福祉園でのアウトリーチ・ワークショップ



文京学院大学での交流ワークショップ

オープンのはら Season5

2024年2月25日に東京芸術劇場の地下1階「ロワー広場」で、1年間の活動の総括となる「オープンのはら Season5」を開催しました。ウォーミング・アップ、「てあわせ」、新聞紙をつかったデモンストレーションを通して普段のワークショップの様子を紹介した後、小作品「ドラゴン」と、第1期から踊り継がれてきた作品「そら」を上演しました。メンバーの友人・知人から劇場のアトリウムやロワー広場を通りがかる人々まで、100人を超える観客に鑑賞いただきました。



2月25日オープンのはら Season5

刊行物の作成

2019年度に始動以来、5年にわたる活動の集大成として、冊子『劇場からのはらを耕す～インクルーシブな身体表現で未来を拓く』を刊行しました。メンバーや周囲の人々のことばを集めた年度ごとのワークショップ等の活動記録とアウトリーチの振り返りで5年間の歩みをまとめた報告書ですが、同時に、コラムや対談を通じて、さらに写真と装丁の力も借りて、言語化の難しい「のはら」の世界観の表出を図りました。冊子はPDFデータでも公表しています。東京芸術劇場のホームページより[ダウンロード](#)できますので、是非ご高覧ください。

企業による支援

昨年度に続き、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の役職員有志の方々と同社のマッチングによる、地域貢献・社会貢献を目的とした募金制度「ゆにぞんスマイルクラブ」の尊い募金から、ご寄附を賜りました。